

令和8年度第4回教育委員会定例会 会議録

◇ 開催年月日 令和8年7月23日（木） 16時10分開会
17時15分閉会

◇ 開催の場所 女性第一・第二研修室

◇ 出席者

教育長	原之園 哲哉
委員	津曲 貞利
委員	前田 圭子
委員	岡本 尚也
委員	福元 佑子

◇ 説明のため出席した者の職氏名

管理部長	小村 真二	教育部長	鶴田 紋太郎
教育DX担当部長	木田 博	学校整備推進担当部長	岩坪 秀樹
総務課長	藤崎 圭規	学校整備推進課長	角之上 知樹
施設課長	中島 祥太	文化財課長	有村 久美子
美術館副館長	谷口 雄三	図書館副館長	小城 裕子
学務課長	山元 卓也	学校教育課長	竹下 直大
学校ICT推進センター所長	池田 伸一	保健体育課長	田丸 武彦
学校給食担当課長	徳丸 仁	児童生徒支援課長	山中 裕美
生涯学習課長	中村 一成	少年自然の家所長	小山 洋見
中央学校給食センター所長	濱田 有希	学校教育課指導主事	山口 優子

◇ 書記

総務課主幹	圓若 正行	総務課主事	坂元 快成
-------	-------	-------	-------

◇ 議事日程

- 1 開 会
- 2 会議成立の宣言
- 3 会議録署名者の指名
- 4 会議の公開等について
- 5 議案審査順

公開

報告事項(2) ワールドステップ e ラーニング事業及びO I S T 訪問科学技術研修事業について

報告事項(3) 令和 8 年度鹿児島市教育講演会及びN E X T K フォーラムについて

報告事項(6) 令和 8 年度かごしま創志塾・ジュニア創志塾について

非公開

報告事項(1) 第六次鹿児島市総合計画後期基本計画（教育委員会関係分）について

報告事項(5) （仮称）鹿児島市新学校給食センター整備運営事業を実施する民間事業者の選定に係る優先交渉権者の決定について

報告事項(4) 陳情第 6 7 号「公立中学校における平和教育及び校外学習の政治的中立性と安全確保を求めることについて」に対する教育委員会の現状等について

- 6 その他
- 7 閉 会

◇ 会議要旨

1 開会

教育長 ただいまから、令和8年度第4回教育委員会定例会を開会します。

2 会議成立の宣言

教育長 議事に入ります。本日は、全員出席しており、定足数に達していますので、会議は成立しています。本日の議事日程は、資料の2ページをご覧ください。

3 会議録署名者の指名

教育長 本日の会議録署名は、津曲委員と前田委員にお願いいたします。

4 会議の公開等について

教育長 会議の非公開についてですが、本日、6つの報告事項のうち、報告事項(1)、(4)、(5)は、意思形成過程の案件のため、非公開で傍聴を禁止する取り扱いとしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

教育長 ご異議もないので、そのように取り扱います。それでは、公開案件からご審議いただき、後ほど非公開案件の審議をお願いします。傍聴について、委員の皆さんにお諮りします。事務局に確認しますが、本日、傍聴を希望される方はいますか。

事務局(企画調整係長) 傍聴及び撮影を希望される方が1名いらっしゃいます。傍聴希望者の住所及び氏名を読み上げます。

教育長 事務局から傍聴希望者の読み上げがありました。希望者の傍聴及び撮影を許可することにご異議ございませんか。

(異議なしの声)

教育長 ご異議もございませんので、傍聴及び撮影を許可することとします。事務局は傍聴人を入室させてください。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

5 報告事項(2) ワールドステップeラーニング事業及びOIST訪問科学技術研修事業について

教育長 それでは、報告事項(2)につきまして学校教育課長、説明をお願いします。

事務局(学校教育課長) 報告事項(2)ワールドステップeラーニング事業とOISTにつきましてスライドを基に説明したいと思いますが、こちらは昨年スタンフォード大学へ生徒を引率した指導主事にOISTの方も含めて説明してもらいたいと思います。

事務局（学校教育課指導主事） 初めに、「ワールドステップ e ラーニング事業 Stanford e-Kagoshima City について」です。

このワールドステップ e ラーニング事業 Stanford e-Kagoshima City は、令和 4 年から準備を進め、令和 5 年度から本格的に実施した事業となります。事業内容としましては、スタンフォード大学教育機関の専任講師が、市立高校に在籍する生徒 30 名を対象に、オンライン講座を開催し、ディスカッションやプレゼンテーションなどを通して探究的な学びの機会を提供し、グローバル社会で活躍する人材育成を図ることを目的としています。スタンフォード大学は、1981 年に開校し、世界大学ランキングで常にトップ 3 に入る世界最高峰の私立大学であり、google の創業者であるラリー・ページや OPENAI CEO のサム・アルトマンなどを卒業生にもつ大学としても知られています。受講希望者には、意欲や積極性を見るために面接を実施し受講者を決定します。ここ数年は、受講希望者の意欲や積極性が高まり、令和 6 年度は 32 名の参加でしたが、令和 7 年度は市立 3 高から 38 名、今年度は鹿児島玉龍高校と鹿児島女子高校から 33 名の受講をお願いし、認めていただきました。授業は 9 月から 3 月まで、原則、隔週の土曜日に計 12 回実施し、毎回 90 分の講義を行っております。講義のテーマは、多文化共生、日米関係、起業家精神などを取り扱います。また、優秀者 2 名を専任講師が選出し、スタンフォード大学で実施される表彰式に出席します。昨年度は玉龍高校から 2 年生 2 名が優秀者として選ばれまして、8 月にスタンフォード大学の表彰式に出席しました。画面左手の女子生徒は、起業家精神をテーマに、鹿児島の特産品を活用してアロマオイルを製造、販売する高校生起業家などを紹介し、起業は私たちにとっても身近に挑戦できることであり、夢を追い続ける大切さについて発表しました。また、画面右手の男子生徒は、大島紬を使った地域活性化についてプレゼンテーションを行いました。六月灯での大島紬のレンタルや、SNS の写真コンテストの開催など、大島紬を身近に感じられる取組を提案いたしました。この 2 名につきましては、講義や課題への取り組み状況はもちろん、人を引きつけるプレゼンテーションの工夫や、地元の課題を自分事として捉え、発表内容に将来性を感じられることなどが評価されました。英語でのプレゼンテーションは生徒にとってハードルが高く、容易ではありませんが、本市の ALT や担当指導主事そして各学校の英語科職員が、生徒一人一人の状況を把握し、丁寧に助言をしたり励ましたりしながら、受講者全員が修了できるように伴走しているところです。令和 7 年度は、8 月 20 日（水）から 8 月 24 日（日）の日程で表彰式に参加しました。1 日目、2 日目は専任講師がサンフランシスコの企業などを案内してくれました。こちらは、専任講師の職場であるソニー Interactive Entertainment グローバル本社です。生徒は、多国籍の職員が英語を共通言語として働く環境を体験しました。2 日目は、アップルパークビジターセンターやグーグル本社を見学し、シリコンバレーの雰囲気や、世界の最先端の技術に触れる機会となりました。3 日目には、スタンフォード大学の表彰式に出席し、参加生徒 2 名は、専任講師たちの前で自分たちのプレゼンテーションを行い、講師たちからの英

語での質疑応答に対応しました。その後、同様のプログラムで参加している他県の生徒たちと一緒に昼食をとり、夜は懇親会が行われました。表彰式の後は、スタンフォード大学のキャンパスを巡り、大学の歴史や規模を体感することができました。本事業の成果としましては、生徒の世界観や価値観が広がったことや、英語への興味関心や英語力が向上したこと、また、自分のキャリアについて前向きに考える機会になったことが挙げられます。一方、課題としましては、自分の英語力に対する不安などから、参加を申し込むことに躊躇してしまう生徒もいるということが挙げられます。また、ドル建てのため、今後の予算確保が懸念されます。本年度は、11,943,000円の事業予算となっております。この事業へのさらに積極的な応募を増やすため、令和7年度からALTを活用して実践的な英語力を育成するワールドステップカフェを開催しております。ワールドステップカフェとは高校生向けに、5月から7月まで計4回実施し、ALTと様々な話題について会話をしたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりします。スタンフォード e-Kagoshima City の受講者も積極的に参加をして、英語力向上の機会としております。また、中学生向けのワールドステップカフェも開催し、外国人観光客への鹿児島市内の案内など、英語に親しむ活動を取り入れ、英語に興味関心を高める工夫を行っています。これらの取組を通じて、スタンフォード e-Kagoshima City に参加する人材の育成にも力を入れています。

続いて、「OIST 訪問科学技術研修事業」についてご説明いたします。本事業は、生徒の科学技術分野への興味・関心を高めるとともに、国際的な視野や英語によるコミュニケーション能力の育成を目的として実施しているものです。あわせて、鹿児島玉龍高校における探究学習の充実にもつなげていく取組となっております。令和7年度の派遣人数は8名で、玉龍高校が校内で選抜しております。まず、OIST についてご紹介いたします。OIST は沖縄科学技術大学院大学の略称で、理工学分野の博士課程のみを置く大学院大学です。世界最高水準の研究を推進するとともに、沖縄の技術革新や産業発展に貢献することを目的として、内閣府によって所管されています。学生の約8割が外国人であり、大学の公用語は英語とし、教育や研究はすべて英語で行われております。さらに、学際性を取り入れており、学部の枠組みを設けず、複数の学問分野を横断して研究を進める学際的な教育・研究環境を特徴としております。このような国際的で多様性に富んだ環境に触れることは、高校生にとって大きな刺激となり、将来の進路や研究活動を考える貴重な機会となっております。また、こちらの大学には、2022年のノーベル生理学・医学賞を受賞されたスバンテ・ペーボ教授がおられます。ペーボ教授は、「絶滅したヒト属のゲノムと人類の進化に関する発見」により、同賞を受賞されました。本事業には、主に三つの目的があります。一つ目は、鹿児島玉龍高校生が OIST の SEED プログラムへの参加を通して、科学技術分野への進学や研究を志す生徒を育成することです。二つ目は、国際的な研究環境や多様な学生との交流を通して、英語力の向上とその必要性への理解を深めることです。三つ目は、鹿児島玉龍高校の『総合的な探

究の時間』の成果を振り返り、カリキュラム改善につなげることです。生徒が世界最先端の研究に触れ、多様な価値観をもつ人々と交流することで、自ら課題を見だし探究する力の育成を目指しています。こちらは昨年度参加したSEEDプログラムの様子です。SEEDプログラムでは、キャンパスや研究室の見学や研究者の講義に加え、生徒が1年間取り組んできた探究活動の成果を、OISTの学生や研究者に対して英語で発表します。発表後にはOISTの学生や研究者から専門的な助言をいただくことができ、生徒は研究内容だけでなく、発表方法や論理的な説明の仕方についても学ぶことができます。また、英語による質疑応答を経験することで、実用的な英語力やコミュニケーション能力の向上にもつながっています。こちらは生徒による探究活動発表の様子です。これまで学校で積み重ねてきた研究成果を発表し、多様な視点から評価や助言を受けることで、研究内容をさらに深めることができます。また、自分たちの研究を他者へ分かりやすく伝える経験は、将来の大学での学びや社会で求められるプレゼンテーション能力の育成にもつながっています。昨年度、参加した生徒の探究テーマは、生徒それぞれの興味関心や経験から「糖尿病や癌などの最先端の治療法や研究について」、「彗星の軌道のシュミレーション化と地球衝突の天文学的可能性について」、「海洋プラスチックの劣化と環境への影響について」など、多様であり、有意義なアドバイスをいただけたと伺っております。こちらの写真は、研究者へのインタビュー活動の様子です。生徒たちは、サンゴ礁研究を行っている研究者の方に直接英語で質問し、研究の内容だけでなく、研究者を目指したきっかけや研究の魅力についても伺いました。第一線で活躍する研究者との交流は、生徒にとって大きな刺激となり、科学への興味や将来への展望を広げる機会となっております。沖縄ではOISTだけでなく、こちらの写真にあるGODACの見学にも行きます。GODACでは、深海ごみの問題や海洋生物の多様性など、海洋科学に関する学習を行いました。生徒たちは、教科書だけでは学ぶことのできない最新の研究成果や観測データに触れることで、環境問題や海洋資源について理解を深めることができました。さらに、沖縄県の中高一貫校等との探究学習も行います。交流会では、それぞれの学校の生徒が研究しているテーマや今後探究したいことについて意見交流を行いました。異なる地域や学校の生徒と意見交換を行うことで、新しい視点や考え方に触れることができ、生徒たちの探究意欲は大いに高まりました。このような交流を通して、自ら学び続けようとする姿勢や、他者と協働しながら課題解決に取り組む力の育成につながっています。本事業の成果として、理系分野について幅広く学ぶことで、「様々な視点から進路選択や社会問題等を考えられるようになった」ことや、「鹿児島や日本だけでなく、世界に目を向けて進路を考えることができるようになった」ことなどが挙げられます。以上がOIST訪問科学技術研修事業の説明です。

このように2つの事業を通して、今後も探究的な学びと国際理解教育の充実を図り、グローバル社会で活躍できる人材育成のため取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

教育長 ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご質問やアドバイスなどご意見ありましたら、次に生かせると思いますが、いかがでしょうか。

委員 こんなにうまく広がってすごく嬉しく思いますが、いま教育で重要なところに「外部連携」があって、良くない外部連携というのは、外部に丸投げしてしまっていて学校への還元がない、もっと言うとも教員への還元がないと良くないんですよね。今回のスタンフォードのもOISTの件も含めて、これらで学んでいることを教員がある程度自前で、完璧には出来なかったとしてもそのエッセンスを日頃の授業とかでしっかりと把握する。例えば、探究であれば探究の方でこんな捉え方があるんだ、みたいなのも必要でしょうし、もっと言うとも英語に関しても、今まで何人も英語で発表する場を見てますけれども、授業の中で使っている英語だけでは全然太刀打ちできないわけですよ。質疑応答の時とかの表現などを、どんどん取り上げていく必要があると思います。

特に一つ、玉龍を例に挙げると、中高一貫なので早い段階で自由度が利くわけですよね。本来であれば、中学校の段階から文法をやらなければいけないけれども、そういう発表の場を考えて与える、本当にコミュニケーションをとるための英語をカリキュラムの中に入れ込むくらいのことをやることも大切かと思うので、外部連携だけではなく、通常の授業でも高度なことをやることで、ああこんなことやってるんだというだけではなくて、いかにそれを学校のカリキュラムの中まで落とし込んでいくのかというところが重要だと思います。

後は、OISTやスタンフォードというのは、すごく名前があるところではあると思いますが、生徒も先生も受け身にならないことが非常に重要で、むしろ生徒からもっとこういうことしたいとか、もっとこういう場を作ってくれみたいな感じのところまで行ってほしいなというふうに思いました。自分も探究学習について研究していることもあるので多くは言いませんけども、探究のこのプログラムの良いところは、はみ出すこと、学校の中のありきたりじゃないけれども、はみ出してみることで、そういう経験もすごく大事なんですよ。でするので、色んなベクトルで生徒がこんなことをやってる人もいるんだみたいな感じで出てくる姿がとても理想的だと思うので、学校として、先生の領域から外れることを良しとする雰囲気作りみたいなことは、ぜひやってほしいなと思います。最後にありましたが、鹿児島の中だけでなく世界に向けて進路を考えるようになった、これ自体はすごく大事なことだと思うんですけど、じゃあ学校の進路指導ってどうなっているのかというのが、1つの大きな問題で、こんなふうになりたいなという時に、そこまでの道がなかなか学校の中でイメージできない場合、今持っている熱量が冷めてしまったりするんですよね。今、探究でやっていること、OISTとかスタンフォードでやったことというのを、このままどう進めば、どういう進路を行けば、例えば秋田のAIUに行くだとか、もしくは海外へ行くのもありなんじゃないかとか、そういう進路指導への反映も重要だと思います。いま一番問題になっているのは、探究やりました、けども進路には全く結びつきませんとかなっていて、これだけ色んなことに取り組んでいるのに、学校側に特色を有した情報があまりにもないから、普通

に受けておしまい。別にそれは、悪くないですよ。僕も探究学習好きですから。ただ、外部でやっていることと日常的にやっていることをうまく繋げるようなところは常に考えていただくとさらに良くなると思います。あくまでもこれは税金で、この金額を使ってやれるというのはすごいことですし、とても羨ましいので、どれだけ波及効果を高めるかというのは、担い手である教育委員会であり学校だと思うので、やってもらってるだけではなくて、自分たちでどうやって繋げていくのかというところが重要な部分だと思います。

事務局（学校教育課長）　いま岡本委員の話を聞きながら本当におっしゃる通りだなと思っております。次期学習指導要領でも「探究学習の充実」というのは、様々な場面で謳われているところで、問いから学びをスタートさせる、そしてそれを自分のキャリアにつなげるような探究学習をやっていきたいと思う反面、先程もありましたように教師が今までそういう授業に直面したことがなかったので、どのような手立てで支援、指導、アドバイス、伴走ができるのか、そこが本当に一番の課題だと思っております。夏休み中など今後、学校教育課の指導主事で、その辺りを協議しながら、早いタイミングで教師の資質能力の向上に努めて参りたいと思います。探究における研究のサポートのあり方というのを1つの視点に、今後とも学校に対して指導助言が出来ればと考えているところです。

教育長　ほかにございませんか。
（なしの声あり）

教育長　せっかくですのでスタンフォードの感想をお願いします。

事務局（学校教育課指導主事）　貴重な体験をさせていただきましてありがとうございます。昨年度スタンフォードに行くということが決まって私自身も英語力をもっと磨かないと、と思いながら自分で学習したり、学校に訪問したりする機会もあったりするので、そういうところでこういうことが必要なということを考えながら行ったところにはなりますが、成績優秀者で一緒に行った2名の生徒が本当にコツコツと目標に向かって進んでいく姿を真近で見ながら、あの場で発表をする緊張感、そしてそれを成し遂げた後の2人の表情を見た時に、涙が出そうなくらいでした。今まで一緒に関わっていたわけではなかったですけども、決まってからそこまで一緒に伴走する形だったんですが、そこで一緒に同じ感動を味わえたということ、そして今また昨年度スタンフォードの12回レッスンを一緒に受けさせていただいて優秀者になるまでにいろんな苦労があって、本当にそこに何度か最後まで頑張れと言いながらサポートしていく難しさ、だけどそこを乗り越えて去年は商業とか女子高、全ての市立3高の生徒さんが参加してくれたので、なんとか最後まで頑張ろうと思いながら一緒にそこを乗り越えて頑張ってきたところで、生徒たちが成し遂げられたことの達成感を味わうというのは、すごく貴重な体験ですし、必要なことだなと思いました。英検4級の生徒も参加したりしました。難しいと言いながら、半分泣きながらというところもありましたが、そういった機会を設けていただけたというのはすごくありがたいですし、この機会をもっといろんな人に知っていた

だいて、もっとそういうことならやってみたいなという子どもを増やしたいなというふうに思っています。今年度もこれから以降も、そこに参加をしたいと思える子どもが増えるようにやっていきたいと思っています。ありがとうございました。

教育長 ほかにございませんか。玉龍は特に校長がこういうものに非常に力を注いでおりまして、今後もっと増えるんじゃないかなと期待をしております。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

報告事項(3) 令和8年度鹿児島市教育講演会及びNEXT Kフォーラムについて

教育長 続きまして、報告事項(3)について学校教育課長、説明をお願いします。

事務局(学校教育課長) 資料綴り6ページをご覧ください。報告事項(3)令和8年度鹿児島市教育講演会及びNEXT Kフォーラムについてです。毎年夏季休業中に、市立幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校の教職員を対象として「鹿児島市教育講演会」を開催しております。今年度は、8月25日に、東京大学の矢口 祐人副学長を講師に迎えて実施いたします。矢口副学長はグローバル教育の分野で豊富な実績をお持ちであり、AIがもたらす社会的、教育的影響という領域においても深い見識をもっており、大変有意義な講演になるものと考えております。例年は川商ホールで開催しておりますが、現在改修中のため、今年度は中央公民館を会場として実施いたしますので、教育委員の皆さまもご都合がつかれましたらご参加いただければと思います。

次に2をご覧ください。今年度から新たに取り組む「NEXT Kフォーラム」というものです。このフォーラムは、教員ではなくて中学校・義務教育学校・高等学校の生徒、教職員および保護者を対象として、生徒が一流の講師の経験や考えに直接触れることで、これからの社会の課題との向き合い方や自らの将来について考える機会とすることを目的としてスタートさせたものです。今年度は教育講演会に矢口副学長がいらっしゃるので、その日の午前中に中央公民館で子どもたち向けに副学長による講演を行い、また昨年度OISTに参加した生徒による発表も予定しているところです。生徒の探究心を刺激する会になるものと考えております。以上です。

教育長 ただいまの説明につきまして、何かご質問等はございませんか。

委員 玉龍の発表というのは、英語でやるんですか。

事務局(学校教育課長) 玉龍の発表は、日本語でやってもらおうと考えております。

委員 英語でやるのも良さそうですが。

事務局(学校教育課長) わかりました。

委員 質疑応答なども英語でやるとか。もちろん日本語を聞き取って分かることも大事なんですけど、英語でのやり取りを見てカッコいいなと感じて、自分も頑張ったらこういうふうになりたいとか、なれるかもみたいなイメージが湧いた

方が良い気がするので、その辺はやり方、例えばA I で日本語字幕をやるとかでもいいですけど、そのように、高校生になったらこんなふうになれるんだというワクワク感を大事にしていただけたら嬉しいなと思います。

事務局（学校教育課長） ありがとうございます。中学生が50名ほど参加するという
ことで、ちょっと英語では難しいかなと思っていたんですが、今言ったように
やり方を工夫すれば英語による発表も十分効果的なのかなと思いますので、そ
こは今後検討して参りたいと思います。

教育長 他はよろしいでしょうか。
(なしの声あり)

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

報告事項(6) 令和8年度かごしま創志塾・ジュニア創志塾について

教育長 続きまして、報告事項(6)について少年自然の家所長、説明をお願いしま
す。

事務局（少年自然の家所長） 報告事項(6) 令和8年度かごしま創志塾・ジュニア創
志塾について、をご覧ください。本事業は、国内外で活躍する講師との出会い
やALTとの交流、鹿児島県の歴史と文化に関する学習、宿泊体験活動等を通して、
郷土に愛着と誇りを持ち、グローバルな視野で、社会をリードする人材の育成
を目的としております。昨年度までの卒業生からは、「前向きに物事を考えられ
るようになり、仲間と交流することで新しい視点や考え方に気づけるようにな
ったことを強く感じています。」「未来の鹿児島を担える存在になれるよう努力
していきたいです。」「鹿児島の魅力に気づき、鹿児島のことがもっと好きにな
りました。」といった感想が寄せられています。また保護者からも、「ものの考
え方が変わり、多様な視点を持つようになった。」「自己の生き方や在り方を考
える貴重な場となった。」「鹿児島を愛し、地域を活性化したいと成長していく
我が子の姿に出会えた。」など、毎年大変好意的な感想をいただいております。確
かな成果を上げていると捉えております。さて、本年度の「かごしま創志塾」は
第12期、「ジュニア創志塾」は第9期を迎え、定員を32人とし、7月から1
2月にかけて、全4ステージで展開します。去る7月12日に、中央公民館に
て、入塾式および第1ステージを実施いたしました。目標設定や仲間づくりを
目的とした演習を行い、その後「人間関係力」や「異文化理解」をテーマに学
習しました。塾生からは資料に掲載の通り、前向きな感想が寄せられておりま
す。詳細なプログラムにつきましては、資料をご覧ください。中高生対象の「か
ごしま創志塾」、小学校5・6年生対象の「ジュニア創志塾」を掲載してござい
ます。国内外の第一線で活躍する方々の講話をはじめ、協働的な学びや、少年
自然の家ならではの体験活動を予定しております。今後も熱中症対策をはじめ、
塾生の安全・安心の確保を徹底して実施してまいります。参考資料としまして

昨年度の様子並びに感想等も添付しておりますので、併せてご覧いただければ
と思います。以上で報告を終わります。

教育長 ただいまの説明につきまして、何かご質問等はございませんか。

委員 この参加者は、32名を公募で選抜しているのでしょうか。

事務局（少年自然の家所長） 出願書を出していただいて、それを基に選抜しております。

委員 倍率はどのくらいですか。

事務局（少年自然の家所長） かごしま創志塾の方が定員32名に対して、36名の応募がありました。ジュニア創志塾が定員32名に対して42名の応募がありました。

委員 もっと定員が増えてもいいのかなと思っていて、せっかくやっているの、可能であればもう少し増やせたらいいですね。

教育長 他はよろしいでしょうか。

（なしの声あり）

教育長 公開案件は、以上となります。それでは、これから非公開案件の議案審査に入りますので、傍聴人の方はご退席ください。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

報告事項(1) 第六次鹿児島市総合計画後期基本計画（教育委員会関係分）について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

報告事項(5) （仮称）鹿児島市新学校給食センター整備運営事業を実施する民間事業者の選定に係る優先交渉権者の決定について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

報告事項(4) 陳情第67号「公立中学校における平和教育及び校外学習の政治的中
立性と安全確保を求めることについて」に対する教育委員会の現状等
について

【 本 報 告 は 非 公 開 】

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

6 その他

教育長 最後に、事務局から何かありますか。

教育長 次回の日程についてご連絡します。次回の教育委員会定例会は、8月20日
(木) 15時から、教育総合センター2階女性第一・第二研修室で開催を予定
しています。以上です。

7 閉会

教育長 以上をもちまして、本日の定例会を終了します。

【以上】